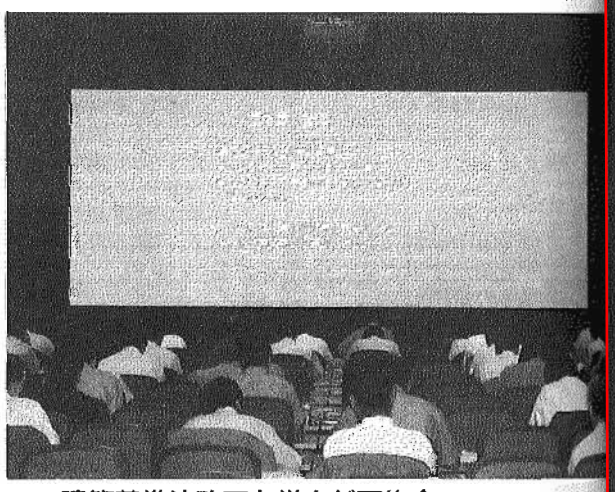
日本建築防災協会 建築防災研修会

耐震改修促進訴える

日本建築防災協会（岡田恒男理事長）は5日、鹿児島市の県市町村自治会館で「15年度建築防災研修会」を開き、本県をはじめ九州各県の発注機関担当者が出席、建築物の防災などを学んだ。

冒頭、岡田恒男会長及び開催県を代表して牟田神宗征土木部次長が挨拶し研修会に移った。研修では国土交通省住宅局の高見真二建築物防災対策室課長補佐が「建築基準法の改正概要」と「建築物の耐震改修の促進」、既存壁式（プレキャスト）鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断指針検討部会の太田勤会長が「既存壁式（プレキャスト）鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断指針」、既存鉄筋コンクリート造建築物の外側耐震改修マニュアル作成部会の関松太郎会長が「既存鉄筋コンクリート造建築物の外側耐震改修マニュアル」、国土交通省住宅局の板倉剛建築物防災対策室業務係長が「建築物の維持保全と防災対策」について説明した後、開催県を代表して県土木部建築課の上橋広行技術主幹兼計画指導係長が「本県における建築物防災対策の推進」について具体的に述べた。

このうち、高見建築物



建築基準法改正も学んだ研修会
＝鹿児島市の県市町村自治会館で

夏場の労災防止を訴えた大会
＝指宿市のふれあいプラザなのはな館で

堀之内商会安全大会

現場作業で危機意識を

㈱堀之内商会（堀之内茂社長）と同社の安全協力会の指宿金曜会（桜井博英会長）は4日、指宿市のふれあいプラザなのはな館で"「あんなかど」そのひと声が危険予知"をスローガンに、15年度安全大会を開き、全員で現場作業に対する危機意識への協調を確認した。

冒頭、物故者に対して黙とうが捧げられた後、堀之内社長が「人を良くしようと思えば、おのずと自らも良くなってくる。周りに影響されず、各自の個性を生かした本物指向の住宅をユーザーに提供できるように、努めていただきたい」とそれぞれの立場から挨拶。

続いて、同協力会の安全推進委員長の竹﨑謙一㈲竹﨑電設社長が、これから夏場に向けての労働災害が多発するため、防止について注意を促した。

協力会社への安全功労と、安全標語採用者に対して表彰が行われた後に、揖宿地区消防組合の救急隊員らによる安全講話が行われ、労働災害が発生した際の応急処置と、人命に関わる状況が発生した際に行う心肺蘇生の方法についてダミー人形を使い実技を兼ねて指導。参加者らは各自の現場をイメージしながら真剣な面持ちで受講していた。質疑の時間にも、緊急時の応急処置・対策方法になどさまざまな質問が参加者から出て、参加者の労働災害に対する危機意識の高さが伺えた。

最後に、安全推進副委員長を務める㈲大村産業の大村義一専務が力強く大会宣言を読み上げ、全員で明日からの現場作業に対する意識の協調を確認した。

また、当日は市内にある同社の現場2カ所を厳密にパトロール、労働災害防止のための指導と安全管理の徹底を促した。

表彰者は次の通り。

協力会社表彰＝㈲竹﨑電設（竹﨑謙一）外薗木工㈲（外薗伸三）▽安全標語表彰＝大村義一 竹﨑謙一 木原昭博 中俣みえこ

舗装を掘り返して弁室交換作業を行う会員
＝伊集院町の妙円寺団地で

伊集院町上水道協力会 幸仕作業

仕切弁室を交換・清掃

伊集院町上水道協力会（今村等会長）は水の日の5日、日置郡伊集院町の妙円寺団地で仕切弁室の交換・清掃などの奉仕活動を実施した。

会員ら約20人は同日朝、妙円寺団地内の妙円寺団地排水池前に集合。宮路高光伊集院町長もかけつけ、「地域根づいた貴会の活動に感謝しています。住民への安定的な水の供給に更なる協力をお願いします」と挨拶。また、今村会長は「本日は、仕切弁室の交換が主体となり、1日ががりとなりますが、けがのないよう十分気をつけて作業を行って下さい」と述べた。

作業は、同団地内に敷設された仕切弁室10カ所の交換と室内清掃16カ所、操作調整、路面段差調整など。弁室交換は区画道路内のアスファルト舗装をミニショベル等を使ってはがし、中の土砂を除去、新しい弁室を設置した。材料は同町役場水道課の支給品。

参加業者は次の通り。

㈲アリムラ水道工業 ㈲伊集院電気水道設備 ㈲今村電水工業 中央設備㈱ 中央工業㈱ ㈲中村商会 ㈲不撓工業 ㈲古薗土木工業 ㈲瑞穂商会

三純建設 土木施設をリニューアル

サーブラスト工法デモ

㈱三純建設（三谷純夫社長）は5日、鋼及びコンクリート構造物等の表面の塗膜や劣化した部分を剥離・研掃し、美観再生や補強再生などのリフォーム工事に広く応用できる「サーブラスト工法」を県内で初めて導入したことから、鹿児島市の同社裏にある中村公園内のインターロッキング舗装を使ってデモンストレーションを実施。鹿児島市道路維持課や同市水道局など行政関係者や関係業者など多数が訪れ、発塵や騒音の少ない環境負荷低減工法に関心を寄せていた。

同工法の構造は、投射材となる鉄の粒（スチールショット）を高速で回転する羽根車の遠心力を生かして対象物に投射し、打ち当てた際に剥離した屑やダスト類は強力な集塵力によって吸引回収され、マシン内で投射材と分離された後、投射材は循環再利用され、粉塵等は集塵機に捕集される。特徴としては、騒音が85db以下と低く、振動が極めて少ないうえに発塵ことから、鹿児島市の同社裏にある中村公園内のインターロッキング舗装を使ってデモンストレーションを実施。鹿児島市道路維持課や同市水道局など行政関係者や関係業者など多数が訪れ、発塵や騒音の少ない環境負荷低減工法に関心を寄せていた。

同工法の構造は、投射材となる鉄の粒（スチールショット）を高速で回転する羽根車の遠心力を生かして対象物に投射し、打ち当てた際に剥離した屑やダスト類は強力な集塵力によって吸引回収され、マシン内で投射材と分離された後、投射材は循環再利用され、粉塵等は集塵機に捕集される。特徴としては、騒音が85db以下と低く、振動が極めて少ないうえに発塵を行うことから後工程は高品質化が図れる。また、自然な粗し効果から滑らない舗装面も確保され、安全性や快適性にも寄与できる。

当日訪れた参加者らは、三谷社長や開発・製造元の新東サーブラスト㈱の持永達哉大阪営業所長に基本的な構造や仕組み等を質問するほか、投射材のスチールショットやきれいに研掃された路面と元の路面とを実際に手で触ってみて比較する姿が見られ、市道路維持課の職員は「コスト面がクリアされれば魅力ある工法の一つ」と語るなど、関心の高さがうかがえた。

三谷社長は「行政の財政が苦しいことは周知の事実。環境に配慮した土木リフォームによりリニューアルを図り、無駄な公共投資を減らし、その分を必要な事業に充てることも大事なのでは」と語った。

デモの様子ときれいに仕上がった路面に見入る参加者＝鹿児島市の現地で

県消防設備安全協会 消防設備士試験 準備講習会

基礎知識等を確認

県消防設備安全協会は5日、鹿児島市の県市町村自治会館で8月3日に実施される「15年度消防設備士試験」の準備講習会を開き、多くの受講者が出席して消防関係法令や機械及び電気の基礎知識等を学んだ。

講習会は、消防関係の法令や機械電気の基礎知識、設備の基準など広範囲にわたり出題が予想され、各講師がポイントを絞って説明した。初日は甲、乙種1種（消防設備）及び乙種6種（消火器）について消防関係法令や機械の基礎知識、工事及び整備などを解説し、受講者はメモを取りながら真剣に学んだ。

また、6日は甲、乙種4種（警報設備）の消防関係法令や電気の基礎知識、工事及び整備などが行われる。

試験のポイントなどを学んだ講習会
＝鹿児島市の県市町村自治会館で